

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	令和6年7月22日	評価結果市町村受理日	令和7年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_kani=true&JiyosyoCd=2170600510-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業所が、運営されているため、利用者やご家族の安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれ季節を楽しむことができます。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実現するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人社団であり、複数の介護施設を展開している。事業所もその中の一つである。利用者が住み慣れた地域で、安心・安全な暮らしができるよう、法人の適切な医療ケアと共に、穏やかな暮らしの支援を実践している。家族にとっても安心して託すことができ、友人も気軽に訪問することができる環境にある。家族と外出する利用者も多い。利用者・家族それぞれのニーズに柔軟に応えながら、本人主体の支援に取り組んでいる。職員は日々、専門職としての研鑽に努め、職員同士は互いに協力合って、利用者支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おもいやりがかよう同居人生活」の理念を共有し、業務をしている	法人理念と運営方針を、各ユニットごとに目につく場所に掲示し、職員は毎日確認しながら支援に取り組んでいる。職員会議やミーティング等で、理念に沿った支援ができていないか話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、移動スーパーに当ホームへ来て頂き、利用者自身で買い物を買ったり、家族と買い物をして頂く機会を作っている	コロナ禍で自粛していた地域との交流も、徐々に再開できている。今後も、更に感染症対策を継続した上で、地域行事への参加やボランティアの受け入れを再開していく予定である。法人ホームページにて、事業所情報を発信している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催している。民生委員、行政の担当者が参加されている。利用者家族の参加は、なかなか得られていない。地域の方々の様子や認知症についてなど、話し合いの場により、地域の現状などを知ることができ、新たな知識を得る機会となっている	運営推進会議は隔月に開催している。家族の参加は少ないが、訪問時に聞いた家族の意見や利用者の様子、運営状況等を報告している。行政や地域包括支援センターからの情報提供、民生委員は地域代表の役割も兼ねて、地域高齢者の実態報告がある。意見交換したそれらの内容を運営に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を開催することで、話し合いの場が増え、親しみやすくなり、相談や意見を頂いたりしている	管理者は行政担当者から、介護保険制度の動向についての説明を受け、運営に役立てている。日頃から、事業所の困難事例や運営状況を報告し、助言や指導を得ながら協力関係を築き、利用者サービスにつなげている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで、3か月に1回拘束適正委員会を開いている。拘束について、職員同士で疑問を意見交換し、検討、理解、意識的に判断し実施するよう取り組んでいる	身体拘束適正委員会を定期的に開催し、各ユニットリーダー参加の上で、実例を上げながら対処方法等を話し合っている。現在、拘束が必要な利用者はないが、拘束の弊害や対象者が出た場合の対応方法など、ユニット毎に職員への共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会をしている。職員同士での確認や話し合いをしている。認知症の症状の理解や対応、ストレスや疲労などの影響を考慮し、情報共有している	管理者は、職員にストレスや疲労が溜まらないよう職員配置を考慮し、シフト作りを行なっている。管理者とリーダーを中心に、全職員で虐待防止の勉強会を行い、事例検討や日々のケアを振り返り、意見交換しながら共通認識を持って、利用者支援に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会をしている。必要時、関係者と話し合いをしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、説明書などを用いて十分な説明を行い、理解・納得が得られるよう図っている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。家族の来所時や電話で家族の意見や要望などをきいたりしている。月に1回、利用者の様子を書面で報告している	家族の訪問が多く、意見や要望を聞く機会となっている。毎月、利用者毎に、担当者が「食事・排せつ・入浴・移動・整容・活動」と詳細に記載した報告書を家族に送付している。特記事項や備考欄にも利用者の様子やメッセージを記述し、行事写真も同封している。家族の安心にも繋がっている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との会話や相談をうけたり、各ユニットの代表者と話し合い、意見交換の場を設け、反映している	管理者は看護師でもあり、日頃から利用者の健康管理に努めている。職員も安心して対応が出来る。管理者は、職員の意見や希望を聞き、直ぐに対応できる事は改善に努め、組織としての課題は法人で検討した上で、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の実績などを把握し、必要時、職員個々と話し合いをしたり、シフトに要望を反映し、働きやすくいられるよう、向上心を持って、維持につながるよう努めている	管理者は、職員個々の要望を聞いたり、努力や実績等を把握するよう努めている。また、向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスにも配慮した勤務シフト、職場環境、就業条件の整備に努めている。休憩時間は、職員間の協力を得ながら適切に確保できるよう工夫している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は、研修を受けるよう指示している。職員個々に合わせ、研修受講をすすめる、職員全体に研修を周知し、職員個々で希望の研修参加を進めている	職員に様々な研修情報を伝え、勤務調整をしながら研修を受講できるよう支援している。管理者は、職員個々の希望や力量を把握し、専門職としてのレベルアップを促しながら、事業所全体の介護の質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、ホーム内での勉強会への参加への取り組みをしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることを模索し、本人と話し合いの場を持ちながら、生活行動への参加や他者との関わりをもてるように、良好な関係となるように間に入ったりしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや意思をきいたり、家族から情報を得たり、職員で本人としてについて話し合ったりしている	職員は、利用者が話しやすい雰囲気作りを心がけ、穏やかに寄り添いながら、思いや意向を把握するよう努めている。把握が困難な場合は、家族の協力を得て情報を収集している。利用者の願いをできる限り叶えられるよう職員間で話しあい、支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、リハビリ、後見人など話し合い、意見をきき、相談している。だいたい3か月毎のカンファレンスで計画の見直しをしている	介護計画は、担当職員の報告をもとに、利用者の日常の様子や計画の進捗状況等について、ケアマネジャーと関係者が話し合いながら作成している。サービス担当者会議には家族も参加し、双方で話し合いを重ねながらの介護計画作りを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに記入し、申し送りノートや早急な見直しや実践の変更の検討の場合は、その日に話し合いの場を設け、職員間で情報共有している。ケアプランに反映している	利用者の日々の様子や状態変化は、個別カルテに記入し、勤務交代時に口頭でも伝えていく。その情報は、職員間で共有している。早急に検討が必要な場合は速やかに話し合い、ユニット会議でもケース検討を行い、ケアプランの見直しに反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に他のサービス事業所があり、いつでも相談、利用できる。相談をうけることもある	利用者個々に、リハビリの必要性や治療が必要な場合は、法人内の専門職に相談・指導を受けることができる。生活用品等の買い物代行なども、利用者や家族のニーズに合わせて、柔軟に対応している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや研修生の受け入れをしていたが、コロナ禍となってから、受け入れを中止、見合わせている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が法人内の病院であり、定期的な往診や、状態により受診している。本人や家族が他院受診の意向がある場合は、受診時に家族の協力を得ている。歯科による往診の協力を得ている	母体法人の病院が協力医でもあり、従前のかかりつけ医であった利用者が多く、本人・家族が選択し定期往診を受けている。管理者は看護師でもあり、利用者の日常の健康管理を担いながら、協力医と連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報提供をし、入院生活へ継続できるようにしている。退院時、退院先について話し合いをし、情報共有している	管理者が入退院時の窓口となり、利用者が安心して療養できるように医療機関への情報提供に努めている。病院のソーシャルワーカーや家族と情報を交換し、退院後も、利用者が安心して過ごすことができるよう環境を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前確認書を基に、本人、家族などへ意向の確認と説明をし、方針の共有をしている。法人内の事業所と情報や方針を共有し、最後をホームでと願う方に日々の暮らしができるよう協力を得ている	契約時に、重度化や終末期に向けた対応について事業所の指針を説明し、同意を得ている。利用者の状態変化時は、早い段階で関係者が意見交換を行い方針を共有している。現在、看取りの希望は少ないが、職員はより良い看取りができるよう勉強会を重ねている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会をし、職員間で話し合いをしている。実践の見直しやマニュアルの作成をしている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力のもと、避難訓練を実施している。	夜間想定を含め、年2回火災訓練を実施し、誘導、連絡体制、担当業務の確認を行なっている。事業所は平屋造りである為、水害時の避難は、すぐ近くにある同法人施設3階のデイケアを避難場所としている。定期的に備蓄品の点検や補充を行い、避難場所への移動方法を話し合っている。	運営推進会議開催時に、事業所の避難訓練への参加依頼をしたり、地域の防災訓練に参加して、地震や水害時の際の避難方法を地域住民と一緒に話し合うなど、協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報交換し利用者ひとりひとりを尊重するよう、意識している。自尊心を傷つけないよう、否定するようなことは避けたり、勉強会をしている	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りを損なわない支援に努めている。プライバシー保護を基本に、自尊心を傷つけない声かけや対応方法等について、勉強会を行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や会話、行動などから判断し、寄り添いながら、思いをくみ取るように意識し、自己決定できるようにしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりのペースに合わせて声かけ、意見を確認しながら支援している。意思の確認が難しい利用者は、その方に合わせて過ごし方を支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけ、見守りをしながら利用者と食器を運ぶなど、準備や片付けをしている。各利用者の好みをリサーチし、イベントで提供したり、利用者と職員と一緒におやつを作っている	外注の食材を利用しているが、栄養バランスと個々の状態に合わせた食事形態で提供し、ほぼ完食出来ている。利用者も食器運びや片付けを手伝っている。イベント食は利用者の希望を取り入れ、おやつ作りなども楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注を利用しているが、利用者の食事の様子や食べる量など確認し、栄養バランスはとれている。食事や水分の形態や量、道具、提供のタイミングと生活リズム、状態などからその方に合うようにしている。管理栄養士とその方にあった物を相談し支援している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方にあった口腔ケアをしている。歯科の協力のもと、その人の口腔内の状態やケアの指導をいかし、口腔ケアをしている	歯科医師の訪問診療があり、利用者の状態確認及びケア方法の指導を受け、全職員が口腔ケアの重要性を理解している。職員は、毎食後、利用者一人ひとりの状態に合わせて、口腔ケアを行っている。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを探り、トイレの見守りや付き添い、介助し、トイレでの排泄を心掛けている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2～3回入浴できるようにしている。時間配分は、各利用者に合わせて入浴して頂いている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添えるようにしている。昼寝の時間をもうけていたり、眠れない方は、話し相手となったり、飲み物を提供するなどしている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で薬剤の理解に努めている。薬による生活の様子や薬の影響による状態の変化、薬によっては効果の程度を確認をしている。異常があれば医師に報告している。服薬の介助をしたり、誤薬に注意をしている	利用者全員分の薬が個別のケースに入って届いている。各ユニットでダブルチェックしながら、1日分ごとに別のケースに移動し適切に管理している。服薬支援時には、飲み込みの確認と口腔内チェックを行い、誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ラジオ体操をしている。食器洗いやたたみ物、掃除や拭き仕事など役割を持っていただいている。塗り絵や歌会、新聞を読むなど気分転換など図っている	利用者1人ひとりの生活歴や残存能力を活かし、敷地内の草取り、共有空間の掃除、洗濯物たたみなど、出来る事を楽しみながら、役割を担えるよう支援している。裁縫の得意な利用者が中心となり、会話を楽しみながら雑巾縫いをする事もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や春は桜を見にドライブに行った。コロナ禍以降、本人と家族のみでの外出は都度主治医の指導の下、感染について家族に説明し出かけて頂くようにしている	天気の良い日は庭を散策したり、縁側で庭の花や木々を見ながら外気浴を楽しんでいる。また、近隣を散歩したり、感染対策をした上で、季節の花見ドライブを楽しんでいる。家族との外出も再開している。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によってお金は、家族や後見人がしている。自己管理されている方は、職員や地域の職員が付き添い支援している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでも使用できるようにしている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が好きなどころで過ごせる。中庭があり、自由に散歩できる。季節により、木々の景色が変わり、果物もなることで、季節感を取り入れている。共有空間は、季節や時期ごとに飾り付けをしている	共用スペースの天井は高く、広い窓から明るい陽光が差し込み、明るい空間となっている。毎朝、利用者と一緒に掃除を行い、安心して移動ができるよう整理整頓している。居間の壁や廊下には、季節毎の飾り付けをし、快適に過ごせる空間作りを行っている。庭は、果樹や四季折々の花を楽しめるよう工夫している。	現在の入浴支援は、利用者の状態によっては複数の職員介助で行われている。利用者が安心して入浴でき、職員の負担が軽減できる入浴環境の検討に期待したい。
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間にソファや椅子を置いたり、中庭のベンチを活用し、ひとりで過ごしたり、利用者同士で過ごしていただけるようにしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内を飾ったり、本人や家族と相談し、ソファやテレビ、机などを置き、過ごしやすいようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、目印をつけるなど、安全に過ごせるようにしている		